

藤澤利治教授退職記念号によせて

2021年3月、経営学部の藤澤利治教授が定年退職を迎えられました。長年にわたって法政大学の教育、研究、学務に貢献された藤澤先生を讃えて、法政大学経営学会では『経営志林』の本号を「藤澤利治教授退職記念号」として刊行することと致しました。

藤澤先生は1950年8月に福島県に生まれ、69年3月に福島県立白河高等学校、そして、73年3月に新潟大学人文学部経済学科を卒業され、75年4月から77年3月に法政大学大学院社会科学研究所経済学専攻修士課程で学ばれました。その後、直ちに東京大学大学院経済学研究科博士課程に進学され、81年3月に同大学院博士課程の単位を取得されました。81年4月新潟大学商業短期大学部専任講師に採用され、83年4月から同助教授を経て、94年10月には新潟大学経済学部教授になりました。その後、2000年4月、法政大学経営学部に教授として赴任され、以来2021年3月満70歳で定年退職を迎えるまで、21年の長きにわたり経営学部に奉職されました。

教育面で、藤澤先生は経営学部における専門科目の「産業史」及び大学院経営学研究科の「地域経済研究（EU）」を担当され、留学生を含む数多くの学生・大学院生が先生の薫陶を受け、各界に羽ばたいて活躍されています。一方、学務面では、経営学部教授会主任及び副主任の重責を担われたのち、通信教育部長（2014～16年度）の要職も務められました。

こうした学内の教育、学務でのご活躍にとどまらず、藤澤先生の学外、研究面でのご活躍も大変顕著なものがあります。日本国際経済学会や証券経済学会を中心に活動され、EU経済の基軸となるドイツの経済、産業についての研究を精力的になされ、その研究の成果は、マクロレベルの経済力を精緻に分析した『ドイツ経済』（東京大学名誉教授工藤章氏との編著、ミネルヴァ書房、2019年）など数々の労作に集約されています。さらには、学外の公務でも、独立行政法人大学入試センターの部会委員として1996～98年、2003～05年、2008～13年の長きにわたり「センター入試」の作問・検討業務にご尽力されてこられました。

このように、藤澤先生は長らく法政大学に奉職され、研究、教育、学務、公務の面でご尽力され、この間の法政大学および経営学部の発展にかけがえのない貢献を果たされてこられました。

今後は法政大学を離れますが、今後とも益々のご活躍ご発展を祈念し、退職記念号刊行の辞とさせていただきます。

2021年4月

法政大学経営学部長

金 容 度

